

POWER FILE ★ 1143

KBS京都創立65周年記念 京都フォーク・デイズ ライブ きたやまおさむと京都フォークの世界



あの頃の風をステージから、ラジオから。

京都フォークとともに歩んできた、KBS京都ならではのライブ。

60年代、70年代を席卷したフォークソングブーム。その風は京都から巻き起こり、やがて全国へとひろがっていきました。当時の京都フォークシーンをすぐそばで見つめてきたのが、KBS京都ラジオ。風潮に流されることなく独自の選曲で良質の音楽をオンエアし続けたことは、フォークソングファンの間で、もはや伝説となっています。

そんなKBS京都だからこそこのイベントとして、4月23日(日)に「KBS京都創立65周年記念 京都フォーク・デイズ ライブ きたやまおさむと京都フォークの世界」をKBSホールで開催しました。元ザ・フォーク・クルセダーズ(以下:フォークル)のきたやまおさむ作品にフォーカスしながら、懐かしい楽曲と秘蔵トークで綴るステージです。

ライブチケットは早々と売空になる盛況ぶり。音楽ファンが詰めかけたKBSホールで笑いと涙、そして感動のライブが繰り広げられました。

伝説のミュージシャンたちが奇跡のセッションで魅せた！

満員御礼の会場で、ライブは15時開演。進行役は、往時を知るラジオパーソナリティ・山崎弘士です。まずはKBS京都と京都フォークシーンを映像で振り返り、その後、京都フォークの元祖ともいえるグループ、ザ・グリティ・グリーンが登場し、爽やかなコーラスを聴かせました。続いて、きたやまおさむさんが自切俳人に名乗って一緒に活動したヒューマン・ズーがステージに…。あたたかいオリジナル曲で観客の心をつかみました。



京都フォークのキーパーソンによるトークタイムでは、ご存知杉田二郎さんと元KBS京都ディレクターの川村輝夫さんを迎えました。杉田さんは、KBSホールの向かいにある京都御苑で歌っていた思い出を披露。きたやま作品への想いも語りました。また川村さんは、当時の政治的背景から各局が放送自粛した「イムジン河」をオンエアし続けたエピソードをめぐってトーク。そして杉田二郎&ヒューマン・ズーが「戦争を知らない子供たち」「男どし」の代表曲を歌った後に、杉田さんがきたやまさんを呼び込みます。70歳を迎えた杉田さんにきたやまさんが贈った曲「人生の階段」を二人でデュエット。前半のハイライトになりました。

休憩を挟み、後半はきたやまさんのレクチャーでスタート。ミュージシャンとしても精神科医としてもおなじみのきたやまさんが、フォークルのメンバーだった加藤和彦さんへの想いを熱く語りました。さらにここで、サプライズゲスト。ステージに現れたそ

の人物を目にして、観客からは驚きの声と拍手が湧きます。もう一人のフォークルメンバーで、解散後もいくつかのグループで名曲を生み出したのはだのりひこさんでした。家族の介護や自身の療養を理由に忽然と表舞台から姿を消したはしださん、10数年ぶりのステージです。娘さんと一緒に車いすで現れたはしださんは、病のことに踏み込みつつ、ギャグも盛り込んで笑いを誘います。時には観客から声援も飛び、ステージと客席の距離はどんどん縮まっていきました。そしてきたやまさん、はしださんに杉田さん、北村謙さんも加わって「風」を歌いました。きたやまさんとはしださんの共演は、実に46年ぶりのこと。懸命に歌うはしださんの姿に、会場は感動で包まれました。フォークルの前にはしださんが参加したグループ、ドゥーディ・ランブラーズのメンバーも駆け付けて、はし



ださんと50年ぶりとなる奇跡のセッションを果たしました。

その後、きたやまさんは自切俳人に変身し、ヒューマン・ズーとハイテンションなステージで盛り上げます。いよいよフィナーレは、フォークル結成メンバーの平沼義男さんも加わって、名曲「あの素晴らしい愛をもう一度」を合唱。鳴りやまない声援と拍手にこたえて、元祖フォークルのきたやまさんと平沼さんを中心に「イムジン河」のアンコール。出演者も観客も、音楽を通じて心をひとつにした熱いライブとなりました。

感動と興奮のライブを、ラジオリスナーへも届けて。

会場の人々にとって忘れられないステージとなったこのライブの模様を、4月30日(日)にラジオでもオンエア。「KBS京都創立65周年記念特別番組 京都フォーク・デイズ ライブ～きたやまおさむと京都フォークの世界」と題して、12時から13時にお届けしました。

夢の共演となった音楽ライブや、ステージで明かされた京都フォークシーンの裏話などをたっぷりオンエア。さらに、当日会場に足を運んでいただいた方々の声も散りばめてお送りしました。

子供の頃、音楽の素晴らしさを教えてくれた近所のお兄さんを思い出したという男性。その後お兄さんは若くして亡くなり、心の中で一緒に聞いている気分だったと話してくれました。また妙齢の来場者が多い中、千葉県からやってきたという19歳の青年は両親の影響で昔の音楽を聴くようになり、今はフォークブームの頃の音楽に夢中なのだとか。京都フォークシーンの立役者であったミュージシャンだけでなく、客席の人々もそれぞれの思い出、人生を重ねて過ごした濃密な時間をラジオリスナーにもお届けしました。 **KBS京都Radio**